

# 若者の心と

## 体を見つめて

青春期内科の現場から

森 崇

④

1980年を過ぎたころからでしょうか。若い女性を中心に「神経性大食症」を訴える人が多くなりました。いわゆる「過食症」です。食べ過ぎて吐く。だが、食べ過ぎを止められない。そして、全身倦怠感を訴える—これらが主な症状です。

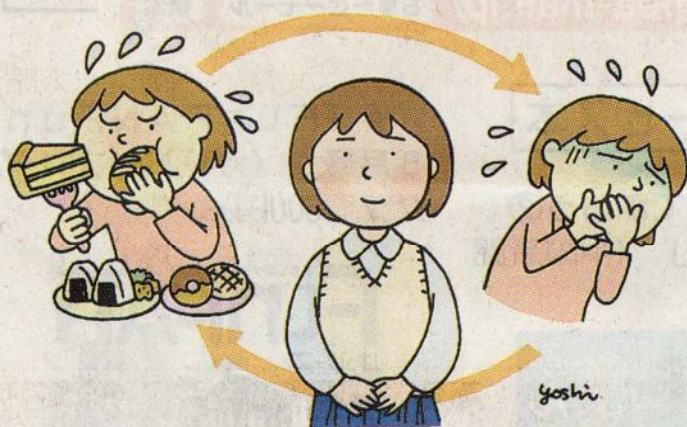
今では、女子高校生の5人に1人が過食症とする報告もあります。ですが、ほとんどの患者は、症状がかなりひどくなつてから病院を訪れるというのが実情です。

時世さん(仮名)もそんな一人です。当時、高校生だった時世さんは、身長158センチ、体重48キ。外見上は問題がないようです。

中学3年のころ、友達に「太っている」と言われ、やせるために食べものを控え出したというのです。そ

### 神経性大食症

## 自分自身を認めて克服



イラスト・吉田葉子

の時の体重は49キ。標準的ですが、「自分は肥満だ」と感じた時世さんは減食をして、43キになりました。すると、周囲から「やせたね」「すごい」と、もてはやされたのです。その直後から、時世さんは激しい空腹感を恒常的に覚えるようになりました。

食事だけでは足りず、菓子やパン

などに手を出します。当然、体重は増加。困った時世さんは、市販の下剤で便を出し、指をのどに入れて食べたものを吐き出すことを繰り返すようになったのです。検査の結果、血液中の電解質異常と低タンパク、貧血であることが分かりました。これらは投薬で治ります。

しかし、過食と嘔吐を引き起こすのは「心の問題」です。そこで、じっくり話を聴きました。中学時代、交際していた男性にふられた時世さんは、友人から「太っている」と言われた体形が原因と思ったということです。そこで、過食をしては「嫌いな自分」を忘れ、嘔吐することで「逃避する自分」を責める悪循環に陥っていたのです。

このことを認知するまでかなり時間がかかりましたが、時世さんは意思と努力で克服できたようです。自分自身を認め、素直に受け入れることが、回復の第一歩なのです。

(北九州津屋崎病院青春期内科部長)